

電子あぶり出し技術を利用した次世代型 情報セキュリティ用ソフトウェアのモデル化

企業 / (株) エーエスエー・システムズ

研究者 / 河口英二（九州工業大学工学部教授）



機密情報管理ソフトウェア
試作

情報化が進むにつれ、社会におけるデータ量は増加の一途をたどるであろう。その中で「第三者に漏れてはならない秘密情報」も増える一方である。このような場合の情報セキュリティ問題は、これまでには主として大規模組織を対象とした「システム・セキュリティの問題」とされてきたため、個人や、小規模の職場(会社の出張所、医療機関、学校、商店)向けの「セキュリティ・ソフトウェア」は少なかった。

本技術は、どちらかと言うとそのような「個人やその周辺に関する秘密データ」の保存管理に向いている。

Steganography(ステガノグラフィ)技術とは、秘密データを画像や音楽データの中に埋め込み、秘密データの存在を人目にさらさない技術である。分かりやすく言えば、コンピュータを用いる情報データに関する「電子あぶり出し技術」のことである。例えば、デジタルカメラで撮った人物、風景、イベント写真などを、「電子アルバム」に貼り付けて保管するとき、その一枚一枚の写真の中に、「人事記録」、「新製品企画書」、「部外秘マニュアル」、「患者のカルテ」などの秘密情報を埋め込んで管理することである。この技術の特徴は、秘密を埋め込んでも、写真には外見上全く変化が現れないので、「秘密の存在」そのものを秘匿できる点である。

本モデル化は、この技術を企業向け、個人向けの「見えない情報金庫」、「かくれんぼアルバム」或いは、電子メール向けの「忍者メール」のようなソフトウェアとして試作したものである。